

# テアル構文の意味分析

— その「意図性」の観点から —

杉 村 泰

## 1 はじめに

本稿は「意図性」の観点からテアル構文の意味分析を試みたものである。従来、テアル構文の意味を論じる場合、「意図性」という側面が重視されてきた。<sup>1)</sup>「意図性」とは次のような文に見られる意味的性質のことである。

(1) 私は本を読んである。

(1)の「読んである」には、「読書感想文を書くため」とか「試験勉強のため」などといった、何らかの「目的」のためという意味が含まれている。そのため、特に目的の意味を表す必要がないときには、(2.a)のように言うよりも、(2.b) (2.c)のように言う方が自然である。

(2) P: あなたは『風と共に去りぬ』を知っていますか?

Q: a. ?はい、前に一度読んであります。

b. 読んでいます。

c. 読みました。

このように、テアル構文の意味には「意図性」の関与する場合がある。

ところが、次のような文には、必ずしも目的の意味が含まれていない。

(3) あっ、こんなところに本が置いてある。

これは話し手が眼前の情景を描写した文である。その情景は動作主の意図によってもたらされたものとは限らない。そのため、次のような問答が成立する。

- (4) P : おれの辞書知らないか？うっかりどこかに置いてきたようなんだ。  
 Q : あっ、こんなところに置いてある。ここにあるぞ。

この場合、Qは、Pが無意識のうちに辞書を置いてきたことを知らされているため、Pが辞書を何らかの目的のために置いたのではないことを知っている。Qの発話した「置いてある」には、格別目的の意味が含まれているわけではないと考えるのが妥当である。

このように、テアル構文には意味的に「意図性」と関わるものとそうでないものが存在している。以下、どのような条件の下で「意図性」が付与されるのかを考察していくことにより、テアル構文の意味に関する記述を精密なものにしていく。

## 2 テアル構文の2類型

同じくテアル構文といっても、上述のような意味の違いのあることから、テアル構文は大きく2つの類型に分類されることが分かる。本節では先行研究をもとにして、テアル構文がどのように分類されるのかを見ていく。

寺村(1984)は、テアル構文を次の2つに分類した。(5)~(8)は寺村(1984)に挙げられた例文)

眼前の状態を描写する場合

- (5) 壁ニ絵ガカケテアル  
 (6) 床ノ間ニハ花ガ活ケテアッタ

現在の状況を述べる場合

- (7) 先方ニハモウソノコトヲ話シテアリマス  
 (8) マダ予約シテアリマセンガ、大丈夫デス

寺村は、前者については、「ある目的のための準備という意味合いは、ある場合もあるが、ない場合のほうが多いようである」と記述し、後者については、「その処置が、あることに対する準備という意図とするものであるという意味合いが

強くなる」(p.151)と記述している。この記述はおよそ妥当であると思われるが、特に前者の場合、いかなる条件の下で「意図性」という意味が付与されるのかが解明される必要がある。

寺村の分類は意味的側面からなされたものであるが、形式的側面からなされたものとして益岡(1987)がある。益岡は、テアル構文を統語的観点から2つの類型に分け、各類型をさらに2つに分類した。各類型は「結果性」という意味特徴を共有しながらも、その内容を異にしている。その様子を次に示しておく。(9)～(16)は益岡(1987)に挙げられた例文)

### 【形式】

- A型： (対象)ガ ～テアル (動作主は抑制される)  
 B型： (動作主)ガ (対象)ヲ ～テアル

### 【意味】

全体に共通する意味： 意志的行為の結果に重点が置かれる「結果相」の表現。

A<sub>1</sub>型： 行為の結果もたらされる、対象の或る場所での存在を描写するタイプの表現。

(9) 飲みかけのコーヒー茶碗が、受け皿から離れて置いてある。(高橋三千綱「五月の傾斜」)

(10) 盆栽が幾鉢かならべてあった。(松本清張「張込み」)

A<sub>2</sub>型： 或る行為の結果もたらされる、対象の何らかの状態が、視覚可能な形で存続していることを描写するタイプの表現。

(11) 新聞紙の半分ぐらいをさらに四つに切ったぐらいの切り抜きが折ってあった。(松本清張「地方紙を買う女」)

(12) それが、いつの間にか磨いてあるのに気づいた。(柴田翔「立ち盡す明日」)

B<sub>1</sub>型： 行為の結果もたらされる、対象の何らかの状態が、基準時において引き続き存在しているという、「結果の事態の存続」の意味が表される。

(13) 業行は自分が写した経巻類をまだ相当量各地の寺々に預けてあり……。 (井上靖「天平の甕」)

(14) 7, 8人っていても, ベストメンバーを選んであるんだぜ。(三田誠  
広「やがて笛が鳴り, 僕らの青春は終わる」)

B<sub>2</sub>型: 単に, 行為の結果が基準時(及び, それ以降)において何らかの有効性を示す, という意味での結果相を表す。対象の何らかの状態がその時点で存続している, といったことは, 問題にされていない。

(15) 笠井は, これまでに, チョコレートに入れて, 金の指輪や, ネックレス, ブレスレットなどを, 彼女に贈ってある。(山村美紗「殺意の河」)

(16) もちろん, 天王山にむけてそれぞれの調整を指示してあります。(報知新聞 1983.7.24)

益岡はテアルの意味を以上の4つに分類した上で, 「テアル表現の全体像は, A<sub>1</sub>型から, A<sub>2</sub>型, B<sub>1</sub>型を経てB<sub>2</sub>型に至る, 1つの連続体を構成している」(p.232)と記述している<sup>3)</sup>。その連続している様子を分かりやすいように図1に示しておく。(図は杉村による)

	A <sub>1</sub> 型	A <sub>2</sub> 型	B <sub>1</sub> 型	B <sub>2</sub> 型
結果性	具体的	←-----→		抽象的
ガ格	対 象	←-----→		動作主
対象指向性	強 い	←----- (背景化) -----→		な い
行為指向性	弱 い	←-----→		強 い
受動的性格	強 い	←-----→		弱 い
ラレテアル	許 容	←-----→		不自然
動詞	配置動詞	状態変化動詞	状態存続動詞	基準時における 有効性を示す動詞 (自動詞でもよい)

[図1]

以上のように, 益岡はガ格が「対象」となるか「動作主」となるかによって, テアル構文を2つに分類した。A型は「(対象)ガ~テアル」という文型を取り, 話し手の眼前の情景を描写する文(情景描写文)であり, B型は「(動作主)ガ

(対象)ヲ～テアル」という文型を取り、動作主の行為を描写する文（行為描写文）である。<sup>4)</sup>ここで先の寺村の例文と比較すると、ちょうど寺村の「眼前の状態を描写する場合」というのが益岡のA型に、「現在の状況を述べる場合」というのがB型に対応していることが分かる。

ここで注意しておきたいことがある。それは、「ガ格の性質」による分類と、「意図性」による分類とが一致していないということである。テアル構文はガ格の性質という観点からは、「A<sub>1</sub>型、A<sub>2</sub>型」と「B<sub>1</sub>型、B<sub>2</sub>型」とに大別された。それでは、「意図性」という観点からはどのように大別されるのであろうか。ここで話し手の表現意図という観点から検討してみよう。A<sub>1</sub>型、A<sub>2</sub>型、B<sub>1</sub>型において話し手の関心は対象の状態存続を述べることにある。その状態が何らかの目的のために作り出されたのかどうかということは二次的な問題でしかない。一方、B<sub>2</sub>型において話し手の関心は行為の結果の有効性を述べることにあり、「意図性」が一次的に問題とされる。<sup>5)</sup>(17.a)のような文が非文となることから、B<sub>2</sub>型のテアル構文には「意図性」が積極的に関与していると考えられる。

(17) a. \*何の意図もなく、私は家に書生を置いてある。

b. 置いている。

よって、「意図性」という観点からは、「A<sub>1</sub>型、A<sub>2</sub>型、B<sub>1</sub>型」と「B<sub>2</sub>型」とに大別されるのである。また、「情景描写」「行為描写」という区別も相対的なもので、どちらとも判断のつきにくい場合がある。

(18) ガスが／をつけっぱなしにしてあるから注意してね。

(18)において、「ガスが～」「ガスを～」ともにガスがつけっぱなしになっている情景を描いているとも、ガスをつけっぱなしにしたという行為を描いているとも解釈される。これらのことをまとめると表1のようになる。

さて、問題となるのは、A<sub>1</sub>型、A<sub>2</sub>型、B<sub>1</sub>型の場合、「意図性」という意味が入るのか入らないのかということである。益岡はこのことに関して特に論じていない。しかし、次のような文を観察すると、「意図性」を無視して考えることのできない場合のあることが分かる。

	A <sub>1</sub> 型	A <sub>2</sub> 型	B <sub>1</sub> 型	B <sub>2</sub> 型
格	対 象		動 作 主	
意 図 性	二 次 的			一 次 的
表現意図	情景描写			行為描写

[表 1]

- (19) a. 列車事故が起きたが、窓が開けてあったのでそこから避難した。  
 b. 開いていた

(19.a) はA型であるが、この「開けてある」には「風を入れるため」などの「意図性」が含まれている。窓が開放された状態にあったという情景だけを述べる場合には、(19.b) のように「開いている」と言う方が自然である。同じA型の(4)に「意図性」が感じられないのとは対照的である。このような相違が生じる原因はテアルを取る動詞の性質にあると考えられる。次節以降、動詞の性質と「意図性」との関係について詳察していくことにする。

### 3 テアル形を形成する動詞の性質

どのような性質を持つ動詞がテアル形になるのかに関しては、Jacobsen (1991) に「他動詞と意図的な自動詞がテアル形を取る」(p.202) という記述がある。Jacobsen の場合、他動詞には「意志性」があると考えているため、このような記述となっているが、角田(1991) の論じているように、「他動性」が高くても「意志性」の低い動詞もある。そのような動詞の場合、テアル形にはなりにくいようである。

- (20) a. \*(台風によって) 千年杉が倒してある。  
 b. 倒れている／倒されている。
- (21) a. \*犯人はうっかり人質を殺してある。  
 b. 殺した。

「倒す」も「殺す」も「他動性」の高い動詞である。しかし、(20.a)は動作主(ただし文の表面には現れない)が非情物であるため意図がないし、(21.a)は動作主こそ有情物であるが、「うっかり」という副詞の存在から、動作主に意図のないことが明らかである。それぞれ(20.b)(21.b)のようにしなければ適切な文とはならない。他動詞であっても必ずしもテアル形を取るとは限らないのである。

しかし、テアル構文に「他動性」がまるで関わっていないのかというと、そうでもなさそうである。実は、「他動性」と「意図性」は独立してテアル構文と関わっているのである。前節で考察してきたように、テアル構文は話し手の表現意図という観点から、大きく「情景描写文」と「行為描写文」に分かれる。前者は眼前の情景変化が察知できる程度に「他動性」の高い動詞、後者には目的を達成するための意志的な行為であることが察知される程度に「意図性」の高い動詞の来ることが予測される。

これらのことから本稿では Jacobsen の記述を修正し、次のように仮定して考察していくことにする。

仮説：テアル構文は、典型的には次の性質を帯びている動詞が使われる。

情景描写文 ……「他動性」が高い

行為描写文 ……「意図性」が高い

仮説を検証するために、『日本語基本動詞用法辞典』にある動詞を含む1020語を使い、当該の動詞が「テアル形」,「意志形」(シヨウの形)<sup>6)</sup>,「命令形」(シロの形),「禁止形」(スルナの形)になるかどうかを調べてみた。(次ページの表2を参照)

その結果、「情景描写文」の場合、〔A〕～〔B〕のように「他動性」の高い動詞ほど使われやすいことが明らかになった。(特に配置動詞,書記動詞,有対動詞については後の節で詳しく論じることにする<sup>7)</sup>)「情景描写」で特徴的なのは〔A〕の動詞の存在である。次の文を見よう。

㉒ あっ、あそこに卵が産んである。

㉓ おや、弁当が忘れてある。

	意志形	命令形	禁止形	コントロール	A・B型	動 詞		
テアル形になる	ならない			不可能	↑ A型になりやすい B型になりやすい↓	(卵を) 産む, (エサを) ついばむ, (置き) 忘れる	A	
	なる	なる	なる	可能		置く, 書く, 開く, 作る, 買う, 並べる, 壊す	B	
						なでる, 読む, 見る, 生かす, 呼ぶ, 教える, 覚える, 歌う	C	
						着る, 脱ぐ, 浴びる	D	
						争う, 結婚する, 触る, 昇る, 通う, 親しむ, 協力する, 反対する, 歩く, 走る, 行く, 座る, 寝る	E	
テアル形にならない	なる	なる	なる	可能		待つ	F	
						生活する, 暮らす, 生きる, 成長する, 死ぬ, いる	G	
				不可能		信じる, 信仰する, 感じる, 思う, 尊敬する, 喜ぶ, 知る, 忘れる	H	
						笑う, 泣く, 怒る	I	
						おっしゃる, 召し上がる, なさる, 下さる, くれる	J	
	ならない	ならない	ならない	可能			鳴く, 吠える, さえずる, はばたく	K
							不可能	間違える, 誤解する, 悩む
				口走る, (笑いが) 噴き出す, なくす, はやまる				M
				見かける, 出会う, 見える, 聞こえる				N
				咲く, 降る, 照る, 光る, 氷る, 流れる, 灯く, 故障する, ある, いる (存在)			O	

[表2]



㉔)は「産む」という行為よりも、話し手の眼前に存在する「卵」に焦点のおかれた文である。動作主は動物であるが、それが意図的に卵を産んだという意味はない。㉔)の「忘れる」は「置き忘れる」という意味であり、〔B〕の「置く」に近い意味を表す。ただ、「置く」が意図的行為も無意図的行為も表すのに対し、この種の「忘れる」は無意図的行為しか表すことができないといった点に違いがある。「置く」も無意図的な動作を表す場合には意志形にならないが、テアル構文を作ることができる。

- (24) a. \*弁当を家に(忘れて)置こう。  
 b. おや、娘に持たせたはずの弁当が家に置いてある。

次の文に使われている「つけっ放す」「散らかしたままにする」という動詞も通常は意図的動詞として使われるが、場面によっては無意図の行為も表す。

- (25) (うちの亭主といたら、火事になるといけないので使った後はガスコンロを消すように言い聞かせておいたのに。)  
 また、ガスがつけっ放しにしてある。  
 (26) (うちの子ときたら、いつも遊んだ後はおもちゃを片付けなさいと言っているのに。)  
 また、おもちゃが散らかしたままにしてある。

(25)(26)は動作主の意図とは無関係に「うっかり」なされた場合に使われた文である。これらは、内容的に「消し忘れられている」「片付け忘れられている」とほぼ同じことを表している。「すべき処置を怠った」という文脈においては、「意図性」のないテアル構文が成立するのである。なお(25)(26)の文で、「ガスが」「おもちゃが」を「ガスを」「おもちゃを」に置き換えてもほぼ同じ内容を表す。ただ後者の方が動作主の存在を強く表しているため、より「行為描写文」的であるといえる。

その他、夢遊病者の行為など、「意図性」の弱いあるいはない場面でも、他動性さえ高ければ(25)(26)のようにテアル構文を作ることができる。

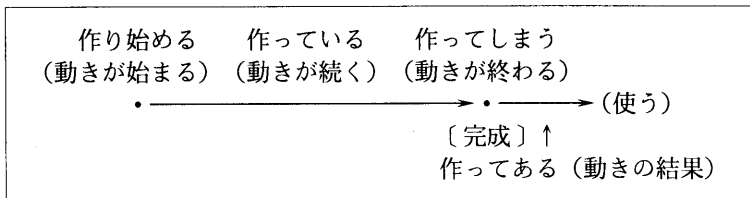
一方、「行為描写文」の場合、〔B〕～〔E〕のようにテアル形を取る動詞は「意志形」「命令形」「禁止形」にもなり、〔N〕～〔O〕のようにテアル形を取ら

ない動詞は「意志形」「命令形」「禁止形」にもならなかった。問題となるのは残りの動詞である(表2の網掛け部分)。このうち〔H〕～〔I〕と〔L〕～〔M〕は、「意志形」などの形は取るものの、その意味は「～スルヨウニツトメヨウ」といったもので、動作主のコントロールの及びにくいものである。一例として㉞を見てみよう。

- ㉞ a. イカサマ教を信じよう。  
 b. イカサマ教を信じろ。  
 c. イカサマ教なんか信じるな。  
 d. ?イカサマ教を信じておく。  
 e. ?イカサマ教を信じてある。

「信じる」という行為は信じようとして信じられる行為ではない。表面上「意志形」を取っているものの、その意味するところは「信じるようにツトメヨウ」である。このような動詞はテアル形にはなりにくい。

〔F〕～〔G〕, 〔J〕の動詞は動作主のコントロールが及びやすいものであるにも関わらず、テアル形にはならない。その理由を考える必要がある。まず、〔F〕の「待つ」の場合、テアルの持つアスペクトの意味が原因となっていることが分かる。ここで「待つ」を「作る」と比べてみよう。高橋(1985)によると、「作ってある」は動きの過程のなかで、次の図2の(↑)の部分に当たるとされる。(図中の〔完成〕と(使う)は杉村の挿入による)



[図2]

「作る」という行為は、完成した製品をその後何らかの目的に使うために行う動作である。そのため、動きの結果というアスペクト的な側面を無視することがで



に限られた期間に使われることもある。通常その行為は人間が格別に意識して行うものではないが、時として意志的な行為を表すこともあり、その場合には「決意」の意味が前面に出て、意志形、命令形、禁止形にすることができる。しかし、テアル形は非文となる。

- ㊦ a. 今日から一人で生活しよう／暮らそう／生きよう。  
 b. 今日から一人で生活しろ／暮らせ／生きろ。  
 c. 一人なんかで生活するな／暮らすな／生きるな。  
 d. \*今まで一人で生活してある／暮らしてある／生きてある。

これらの行為の目的を考えてみると、「生きるために生きる」とか「暮らすために暮らす」のようになる。これらの動詞は「行為」と「目的」が同じなのである。これらの動詞をテイル形にした「生活している」、「暮らしている」、「生きている」は、「結果相」の意味にはならず「継続相」の解釈にしかない。これらの動詞は「結果相」を表すことができないので、テアル形にならないのである。

・「成長する」

話し手や聞き手の「希望」として「もっと大人に成長しよう」、「人間的に成長しろ」、「オバタリアンに成長するな」とすることができる。しかし、これはあくまでも話し手の「希望」であり、実際に動作主の意志でコントロールできるのは自分自身の心にすぎないので、テアル形は非文となる。

・「死ぬ」

病気や老衰で「死ぬ」場合は「意図性」がないが、自殺して「死ぬ」場合は「意図性」がある。しかし、どちらの場合もテアル形にはならない。「待つ」と違って、死ぬために死ぬだけではなく、「死んだ後に何らかの効果を残すため」という目的の意味が入る場合もある。たとえば、「死んで責任をとるため」とか、「妻子に保険金を残すため」とかである。しかし、その場合でもテアル形にはならない。本稿では詳しく考察しなかったが、「死ぬ」のように行為の結果が動作主に及ぶ動詞は「行為描写文」に使われる傾向がある。その場合、動作主は一人称（疑問文では二人称）になるという人称制限がある。<sup>8)</sup>（「情景描写文」にするには「誰かが死んでいる」のようにテイル構文にする。）死んだ人が自分の行為を語っ

たり、生きている人が死んだ人と会話するといったことは、通常ないことであるから、「死ぬ」はテアル形にならないのである。もし黄泉の国に行けば「この世で一緒になるために私は死んであるのです」という会話が聞かれるかもしれないが、「死ぬ」という言葉には「それで終わり」という意味が入っているので、死んだ後のことを自ら述べる表現は不自然な感じがする。

・「いる」

森田(1989)は『『ある、いる』は本来、状態性の動詞のため、ことさら『ている／てある』を付ける必要はなく、事実付かない』と記述している。しかし、森田は「いる」に2種類あることを見落としている。一つは「あっ、熊がいる！」と言うときの「存在のいる」であり、もう一つは「今日は寒いから家にいるよ」と言うときの「行為のいる」である。前者は森田の論じているとおりの理由で「\*いてある」とは言えない。後者は「状態」ではないため「いよう」、「いろ」、「いるな」とは言えるが、<sup>9)</sup>「\*いてある」とは言えない。

最後に〔J〕～〔K〕に関して論じる。〔J〕の「おっしゃる」「召し上がる」「なさる」は尊敬語である。対応する「言う」「食べる」「する」がテアル形になるのに対して、「?おっしゃってある」「?召し上がってある」「?なさってある」は不自然な表現である。尊敬語とテアル構文はなじまないようである。〔J〕の「くれる」「下さる」は二人称主語の動詞、〔K〕は動物を主語とする動詞である。そのため「命令形」や「禁止形」にはなるが、一人称を主語とする「意志形」にはならない。テアル形にならない理由はどちらも人称制限によるものと考えられるが、詳細は稿を改めて論じることとする。

ここまでの考察から仮説は修正が必要になる。「行為描写文」の場合、「待つ」に代表されるように「意図性」が高くてもアスペクト的にテアル形にならない動詞の含まれることが分かった。意図的な動詞からこれらの動詞を除いたものが、まさしく益岡の言う「基準時における有効性を示す動詞」である。本稿ではこれがどのような動詞であるのかを具体的に示すことができた。以上テアル構文は意図性の高い動詞だけではなく、無意図の動詞も含まれることが判明した。テアルの全体的な意味を「意志的行為の結果に重点が置かれる『結果相』の表現」とした益岡の記述は一部修正され、「行為の結果に重点が置かれる『結果相』の表現」

とする必要がある。

## 4 本動詞アルとの近接

### 4.1 本動詞アルとの関係(1)

テアル構文に目的の意味が入らない条件として、本動詞アルと近接する場合が挙げられる。そこで本節では、どのような動詞がアルと近接するのかを観察していくことにする。次の文を見てみよう。

(29) P : ぼく、知らないうちに本をどこかに置いてきちゃったんだけど。

Q : a. 君の探している本なら、ここにあるよ。

b. 置いてあるよ。

(29.a) (29.b) はともに話し手の眼前の情景を述べた文である。Pが何ら意図もなく本を置いてしまったことは明らかである。そのため、「意図性」のないアルを使用した (29.a) のような文が成立するわけであるが、(29.b) のような文も適切な文として成立する。この場合「置いてある」には、ことさら何らかの目的のためという意味は含まれていない。これは、この文が行為自体よりも対象の存在を表すことに主眼の置かれた表現だからである。アル構文が単に対象の存在を述べているだけなのに対し、テアル構文はそれがどのように存在するのかまで述べているのである。

益岡(1992)は「この型(稿者注: A<sub>1</sub>型)のテアル構文が、本動詞『ある』が表す事物の存在の意味と深く結びついている」として、A<sub>1</sub>型のテアル構文がアルと意味的に連関する根拠を3つ挙げている。<sup>10)</sup>はじめに益岡の挙げた3つの根拠をまとめておき、その後で順次検討していくことにする。(30)~(34)は益岡(1992)に挙げられた例文)

#### 第1 場所表現の現れ方。

まず益岡は、次の文で「冷蔵庫に」という場所表現を要求するのは、「冷やす」ではなく、補助動詞の「ある」のほうであると考えられると述べている。

(30) 冷蔵庫にビールが冷やしてある。

その理由を、「冷やす」が単独で述語になる文では、「冷蔵庫に」のような場所名詞は共起しにくいからであるとしている。

(31) \*冷蔵庫にビールを冷やした。<sup>11)</sup>

## 第2 場所名詞の表現形式。

続いて、次の文のように「止まる／止める」という動詞は、場所表現に「に」も「で」も使える動詞であるが、補助動詞「ある」が付加されると、「で」の使用は少し難しくなると述べている。そして、このことは、アルが要求する場所の助詞が「に」であることと共通すると論じている。

(32) a. 家の前に／でトラックが止まった。

b. 家の前に／でトラックを止めた。

(33) a. 家の前にトラックが止めてある。

b. ?家の前でトラックが止めてある。<sup>11)</sup>

## 第3 ガ格名詞の性格。

最後に、アルが表す存在の対象は非情名詞に限られ、このことは、程度の差はあるものの、テアル構文にも当てはまる。テアル構文の主体に有情名詞を据えることは困難であると述べている。

(34) ?あそこに人が吊してある。

まず、「場所表現の現れ方」について検討しよう。先の例文(30)は適切な文であり、(31)は不自然な文であったが、他の場合はどうであろうか。(35)の各対を比べてみると、3種類に分けられることが分かる。

(35) a. ここに本が置いてある。

ここに本を置いた。

b. ここに食器が並べてある。

ここに食器を並べた。

c. ここに字が書いてある。

ここに字を書いた。

d. ここに線が引いてある。

ここに線を引いた。

- e. ここに切り絵が切ってある。 ?ここに切り絵を切った。  
 f. \*頭に髪の毛が切ってある。 \*頭に髪の毛を切った。  
 g. \*ここにケーキが食べてある。 \*ここにケーキを食べた。  
 h. \*ここに窓が開けてある。 \*ここに窓を開けた。

(35.a)～(35.d)の左側の文はA<sub>1</sub>型のテアル構文である。これらは本動詞が単独で述語になる場合(右側の文)に、場所名詞(この場合「ここに」)と共起するという点で、(30)とは違っている。A<sub>1</sub>型には「置く」に代表される配置動詞と、「書く」に代表される書記動詞が使用される。これらの動詞は単独で存在の意味を表すという点でアルと近い関係にある。これとは逆に、(35.e)の「切る」は、単独では場所名詞と共起しないという点で、(30)と共通している。これらは次のように言い換えることができる。

- (36) ここに切り絵が切って(置いて)ある。  
 (37) 冷蔵庫にビールが冷やして(入れて)ある。

「切る」「冷やす」のような動詞は、単独では存在の意味を担わないが、テアル形にすることによって存在の意味を担わせることができる。ただし、その背後に配置動詞が隠されているのである。この点でこの種のテアル構文は、A<sub>1</sub>型とA<sub>2</sub>型の間位置するものと考えられる。また、(35.f)～(35.h)は、単独で述語になるときに場所名詞と共起しないばかりか、テアル構文においても場所名詞との共起を許さない。これらはA<sub>2</sub>型のテアル構文である。アルに含まれる存在の意味が弱まり、本動詞の意味が強く構文に影響していると考えられる。以上ここでは、場所表現との共起関係から3つに分けることができた。

次に、「場所名詞の表現形式」について検討しよう。(35)の左側の各文の「ここに」を「ここで」に置き換えると、「情景描写文」として不自然な文になる。(「行為描写文」としてなら容認できる。)これはA<sub>2</sub>型にもアルの存在の意味が残っているためであると考えられる。

最後に、「ガ格名詞の性格」について検討しよう。次の例文を見てみよう。

- (38) ?あそこに人が吊してある。 = (34)



- (39) あそこに奴隷が吊してある。  
 (40) あそこに赤ちゃんが寝かせてある。

(38)のように吊された主体が「人」の場合は不自然な文であるが、(39)のように主体を「奴隷」に変えると容認度が高くなる。また、(40)のような文が適切な文であることから、必ずしも格名詞が非情名詞だとは限らない。また、「本動詞アルが表す存在の対象は非情名詞に限られる」という益岡の記述は、次のような文の存在から制限が強いと思われる。

- (41) 私には妻と三人の子供がある。  
 (42) 愛する友人とともにありたいという少年の願望を詩にしている。

が格名詞の制限については稿を改めて考察することにする。

## 4.2 本動詞アルとの関係(2)

4.1で観察したように、「置く」に代表される配置動詞と「書く」に代表される書記動詞がアルと近接することが分かった。本節ではさらにこれらの動詞がアルに近づいている証拠を示そう。否定形において次のような違いが見られる。

- |                           |                    |
|---------------------------|--------------------|
| (43) a. 本が <u>置いてない</u> 。 | ⇒ 本が <u>ない</u> 。   |
| b. 食器が <u>並べてない</u> 。     | ⇒ 食器が <u>ない</u> 。  |
| c. 字が <u>書いてない</u> 。      | ⇒ 字が <u>ない</u> 。   |
| d. 線が <u>引いてない</u> 。      | ⇒ 線が <u>ない</u> 。   |
| e. 切り絵が <u>切ってない</u> 。    | ⇒ 切り絵が <u>ない</u> 。 |
| f. 髪の毛が <u>切ってない</u> 。    | ≠ 髪の毛が <u>ない</u> 。 |
| g. ケーキが <u>食べてない</u> 。    | ≠ ケーキが <u>ない</u> 。 |
| h. 窓が <u>開けてない</u> 。      | ≠ 窓が <u>ない</u> 。   |

(43.a)～(43.e)において、文脈によっては左辺の内容が右辺の内容を含意することがある。それに対して(43.f)～(43.h)においては、そのようなことはない。A<sub>1</sub>型において話し手の関心は、対象物の「存在」にある。本動詞は眼前の対象

物がどのような状態で存在するのかを規定しているが、それは二次的に付け加わった意味である。そのため、特に何らかの目的のためという場面がない限り「意図性」が入りにくい。一方、A<sub>2</sub>型において話し手の関心は、対象物の「状態の変化」にある。対象物があるかないかということよりも、それがどうなったのかが問題とされるのである。そのため本動詞の意味がより強く現れるようになる。その結果、その本動詞で表された行為が何らかの目的のために行われたという「意図性」がより強く現れるようになるものと考えられる。

## 5 有対他動詞と無対他動詞

寺村(1984)にはテイル, テアル, ラレテイルの3者を比較して, 有対動詞の場合, 眼前の状態が人が意図をもってした作為によってもたらされたと捉えられた時にはテアルが使われるとの言及がある。次の文を見てみよう。

- (44) a. おや, 閉めておいた窓が開けてある。(有対他動詞)  
 b. 開いている。(有対自動詞)

閉まっているはずの窓が開いているという情景を見たとして。単にその情景を描写するだけではなく、その情景が何者かの作為によって意図的にもたらされたと捉えられた場合は(44.a)のように言う。この場合、動作主は有情物に限られる。そうではなく動作主の「意図性」を問題とせず、単にその情景を描写するだけの場合は、(44.b)のように言う。この場合、動作主は有情物でも非情物(風など)でもよい。

(44)を見る限り有対動詞は、「他動詞 + テアル」には「意図性」があり、「自動詞 + テイル」にはそれがないという違いがあるように見える。それでは他の場合はどうであろうか。

- (45) a. テレビが映らないと思ったら, コンセントがはずしてあった。  
 b. はずれていた。  
 (46) a. ?おや, こんなところに財布が落としてある。

- b. 落ちている。
- (47) a. 壁にルーベンスの絵が掛けてあった。  
 b. 掛かっていた。
- (48) a. 強盗に襲われたが、側に立ててあったほうきで追っ払った。  
 b. 立っていた

たしかに、(45)(46)の各対には上記のような違いが感じられる。(46.a) が不自然に感じられるのは、意図的に財布を落とすという場面が想定しにくいからである。ところが、(47)(48)の各対には特にそのような違いは感じられない。(47.a) (48.a) と (47.b) (48.b) の違いは、前者では動作主の存在が意識されているのに対し、後者ではそれが意識されていないという点にある。(47.a) (48.a) に「意図性」が感じられないのは、それらが配置動詞を使ったA<sub>1</sub>型のテアル構文であり、単に対象の存在を描写しているだけだからである。

また、先に示した(25)(26)と同様に、「すべき処置を怠った」という文脈においては、A<sub>2</sub>型のテアル構文でも「意図性」が含意されない。

- (49) あいつは本を読む時、知らず知らずのうちにページの端を折る癖がある。  
 注意しているって言っていたのに、また折ってある／折れている。

以上のように、有対他動詞のテアル構文だからといって、「意図性」があるとは限らない。たしかに、有対他動詞のテアル構文には「意図性」のある場合が多い。しかし、それは有対他動詞には配置動詞以外のものが多く、単に対象の存在を述べるだけでなく、動作主の行為にまで言及することが多いためである。動作主の行為は通常何らかの目的のためになされるので、特に(49)のような文脈でない限り「意図性」が含意されるのである。

一方、無対動詞の場合、(50)に見られるように単にその情景を描写するだけのときにも「他動詞 + テアル」という形が使用される。

- (50) おや、何か文字らしきものが書いてある。(無対他動詞)

無対他動詞は、単にその情景を描写するだけの場合に「自動詞 + テイル」の形

にすることができない。そのため、代わりに「他動詞 + テアル」という形が使用される。次の文を見てみよう。

- (51) 洗面所から戻ってくると、床はきれいにあげられて、炬燵の置台の上に、茶と、砂糖漬けの梅干しとがのっていた。その傍に朝刊が、たたんで置いてある。(松本清張「ゼロの焦点」)
- (52) 牛乳を飲む人の背中には、がんばりますと書いてある。(全農／全国農協直販株式会社 車内広告)
- (53) 禎子の目には、アパートの押入に未整理のまま積んである書籍の古びた背文字が浮かんた。(松本清張「ゼロの焦点」)
- (54) 歌の意味は、春が過ぎていつしか夏が来たのであろう、天の香具山に白妙の衣の干してあるの見える(略)(吉井勇「百人一首物語」)

(51)の「置いてある」は、単純に眼前の情景を描写した文であって、「他動詞の受身形 + テイル」(＝あげられている)や「自動詞 + テイル」(＝のっている)と並列されていることから分かるように、特に「意図性」が含まれているわけではない。(52)～(54)の「書いてある」「積んである」「干してある」にも、特に何らかの目的のためという意味は入っていない。ここに挙げた4例とも単にその情景を描写しているのであって、「意図性」のないラレテイル構文に置き換えることができる。

## 6 おわりに

本稿ではテアル構文の「意図性」について考察してきた。テアル構文は全体として「行為の結果に重点が置かれる『結果相』の表現」という意味を共有しながらもいくつかの類型に分類され、各類型によって「意図性」に関して異なる様相を見せている。

テアル構文は形式的に大きくA型とB型に分かれる。A型は「(対象) ガ～テアル」という文型を取り、典型的には話し手の眼前の情景を描写した表現である。その情景は動作主の行為の結果出現したものであるが、話し手によって当該の行

為が特に何らかの目的のためになされたと捉えられる場合もあればそうでない場合もある。そのため「意図性」が入ることもあれば入らないこともある。A型はさらにA<sub>1</sub>型とA<sub>2</sub>型に分かれる。A<sub>1</sub>型において話し手の関心は、対象物の「存在」にあり、特に何らかのためという場面でなければ「意図性」が現れにくい。一方、A<sub>2</sub>型において話し手の関心は、対象物の「状態の変化」にあり、その本動詞で表された行為が何らかの目的のために行われたという「意図性」が強く現れる。

A<sub>1</sub>型とA<sub>2</sub>型では、使われる動詞の特徴の違いが見られる。A<sub>1</sub>型は対象物の「存在」を表すため、動詞アルに近接する配置動詞が使われる。他方、A<sub>2</sub>型は対象物の「状態の変化」を表すため、視覚などの感覚で変化が察知されやすい「他動性」の高い動詞（配置動詞を含む）が使われる。また、有対動詞の場合、「他動詞＋テアル」が意図的行為の結果を表し、「自動詞＋テイル」が無意図的行為の結果を表すという傾向のあることも観察された。特に有対他動詞がA<sub>2</sub>型に使われた場合、ことさら何らかの目的のためという場面を設定しなくても、「意図性」が強く感じられる。ただし、それは傾向にすぎず、「すべき処置を怠った」という文脈においては、「意図性」が含意されない。

B型は「(動作主)ガ(対象)ヲ/ト/ニ/φ～テアル」という文型を取り、典型的には動作主の行為の結果を描写した表現である。B型もさらにB<sub>1</sub>型とB<sub>2</sub>型に分かれる。B<sub>1</sub>型は「意図性」が二次的に加わるものである。この点でA<sub>2</sub>型のテアル構文と近い関係にある。この型に使用される動詞は、状態変化が察知されやすい程度に他動性の高い動詞である。一方、B<sub>2</sub>型は「意図性」が一次的に表現されるものである。行為というものは、何らかの目的のためになされる場合もあればそうでない場合もあるが、「意図性」のある場合はテアル構文が使われ、「意図性」のない場合はテイル構文が使われるという使い分けが見られる。この型には「意図性」のあるものならば「他動性」の低い動詞も使われるが、「待つ」「生きる」のようにアスペクト的な制約のために、「意図性」があってもテアル構文に使われない動詞もある。他動性が低く、状態変化が察知されにくい動詞はB<sub>2</sub>型としてのみ使われる。

## 註

- (1) 吉川(1973), 寺村(1984), 益岡(1987), 町田(1989)などを参照のこと。吉川と寺村は「準備」, 益岡は「基準時における有効性」, 町田は「目的性」という用語を使っているが, ある行為の結果が何らかの効果を生むという意味を表しているという点で共通していると考えられる。
- (2) 森田(1977)(1989)の提示している2つの類型も同様のものである。
- (3) 益岡(1987)には, 以下に示すような「～ニ／ト／ $\phi$ ～テアル構文」に関する記述がない。これらはともにガ格が動作主となるため, B型に含められるべきものである。これらの考察を加えることにより, テアル構文の全体像が明確になっていくものと思われる。杉村(1995)ではこれらの構文に関して, 若干の考察をした。
- (ア) カラオケ大会に優勝するために, カラオケ学校に通ってある。
- (イ) 結婚詐欺で儲けるために, 社長の息子と結婚してある。
- (ウ) マラソン大会に優勝するために,  $\phi$ 十分走ってある。
- (4) 「情景描写文」「行為描写文」という用語は杉村によるものである。便宜上本稿においても, 益岡に倣ってA<sub>1</sub>型, A<sub>2</sub>型, B<sub>1</sub>型, B<sub>2</sub>型という記号を使う場合がある。なお, 情景描写には視覚以外の感覚によって捉えられたものも含まれるものとする。
- (ア) イチローの部屋はいつもクラシックがかけてある。(聴覚)
- (イ) エミリーの部屋はいつも香が焚いてある。(臭覚)
- (ウ) チョルスの料理は唐辛子味がつけてある。(味覚)
- (エ) フランシーヌの家の床は滑って転ぶほどツルツルに磨いてある。(触覚)
- (オ) イカサマ神殿にはえも言われぬ霧閉気が漂わせてある。(心)
- (5) この点について益岡は「テアル表現に関してよく指摘される「準備」等の含意は, B<sub>2</sub>型にもっとも顕著に認められるようである」(p.235)と記述している。
- (6) ショウには「意志」以外にも, 「申し出」(お送りしましょう), 「勧誘」(一緒に行こう), 「推量」(今日は晴れましょう), 「譲歩」(どこに行こうと君の自由だ)といった用法があるが, 本稿でショウの形になるかならないかといった判定は, 一人称を主語にした「意志」の用法によってのみ行った。そのため〔A〕の動詞も, ニワトリに話しかけるように「どんだん卵を産もうね」などといった場面ではショウの形になるが, 本稿でいう「意志形」には含まれていない。
- (7) その他, 〔D〕の再帰動詞にも興味深い特徴が見られたが本稿では割愛する。杉村(1995)にはその点に関しての考察がある。
- (8) テアル構文の人称制限に関しては, 森田(1977)(1989), 寺村(1984), 益岡(1987)などを参照のこと。
- (9) この理由に関しては現在検討中である。

- (10) 一方、B型のテアル構文に関してはテオク構文との連関が指摘されている。益岡には「後の時点での有効な状況を作り出すための行為を描く」のがテオク構文であり、「テオクという行為を結果の状況に焦点を置いて表現したものがテアルである」(p.535)という記述がある。
- (11) この例文の判断は益岡によるものであるが、稿者および稿者の聞いた数人の日本人は、(33.b)に比べ(30)の方が容認しやすいと判断している。(33.b)が「？」なら(30)も「？」でよいと思われる。
- (12) 配置動詞とは、吉川(1973)が「代表動詞「おく」を形・場所・様態・関係・状況・目的で規定した意味をあらわす動詞」と定義した「空間的存在様式をあらわす動詞」(P.258)に相当する。

### 参 考 文 献

- 小泉 保他(編). 1989. 『日本語基本動詞用法辞典』. 大修館書店.
- 杉村 泰. 1995. 『テアル構文の研究』. 名古屋大学1994年度修士学位論文.
- 高橋太郎. 1985. 『国立国語研究所報告82 現代日本語動詞のアスペクトとテンス』. 秀英出版.
- 角田太作. 1991. 『世界の言語と日本語』. くろしお出版.
- 寺村秀夫. 1984. 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』. くろしお出版.
- 益岡隆志. 1987. 『命題の文法—日本語文法序説—』. くろしお出版.
- . 1992. 「日本語の補助動詞構文—構文の意味の研究に向けて—」. 『文化言語学—その提言と建設—』. 文化言語学編集委員会(編). 532-46. 三省堂.
- 町田 健. 1989. 『NAFL 選書9 日本語の時制とアスペクト』. アルク.
- 森田良行. 1977. 『基礎日本語』. 角川書店.
- . 1989. 『基礎日本語辞典』. 角川書店.
- ヤコブセン, ウェスリー・M. 1989. 「他動性とプロトタイプ論」. 久野 暉・柴谷方良(編). 『日本語学の新展開』. 213-48. くろしお出版.
- 吉川武時. 1973. 「現代日本語動詞のアスペクトの研究」. 『日本語動詞のアスペクト』. 金田一春彦(編). 1976. 155-323. むぎ書房.
- Hopper, Paul J. and Sandra A. Thompson. 1980. Transitivity in grammar and discourse. *Language*. 56:251-99.
- Jacobsen, Wesley M. 1991. *The transitive structure of events in Japanese*. Tokyo, Kurosio Publishers.